

# Counseling Room

家庭問題カウンセリングルーム

## 第124回

公益社団法人  
家庭問題情報センター 西田 俊男

### 「娘が会社に行けなくなってしまうました」

A 子さんは、長女 B 子さんが会社に行かなくなったことから心配してカウンセラーの所にやって来ました。

B 子さんは大学を卒業後銀行に就職、今春で10年目で中堅になり、結婚も決まりそうでした。順風満帆で喜んでた矢先の突然の出来事で A 子さんは驚き、事態が飲み込めませんでした。B 子さんは家で泣いてばかりの状態でした。

**カ** 今日はどんなことでいらっしゃいましたか？

**A** B 子さんが会社が嫌だと言って会社に行かなくなってしまうました。会社内に、自分の居場所が無い、もう行けない、と泣いてばかりなのです。

**A** 詳しく話していただけますか。

**カ** B 子の就職先は二人で選び、希望した銀行に決まって二人で大喜びをしました。就職して6年くらいで職場近くで一人暮らしを始め、彼氏もできて何もかも順調だと思っていました。

**カ** そうですか、親としていろいろ考え、一緒に歩んできたのですね。

**A** ええ、B 子のことはよく分かっているつもりでした。

でも、一人暮らしを始めて彼氏ができて、少しずつ変わっていった感じですよ。

**カ** 会社に行けなくなったのは、何かきっかけがあったのですか？

**A** 昨年夏、彼氏からプロポーズされたのですが、B 子は断ってしまったのです。自分で決めようとしたのですが、彼と二人の暮らしを考えると足元がぐらつく感じて決められなかった、と B 子は言っていました。

それで自信が無くなり、さらに悪いことに仕事でのミスが重なり、4月から今度は教える立場になるのに何もできない、分からない、と落ち込み、仕事に行けなくなりました。

**カ** A 子さんは B 子さんのことを考えながらやってきたのですね。それだけに今回は、ほとんど遠く離れていくように思ってしまうわけですね。

**A** そうなんです。B 子のことが分

からなくなってしまうました。

**カ** 離れるというと中学生や高校生のころに反抗期などはあったのですか？

**A** 無かったです。

いつも B 子と話し合って解決してきました。私がピアノを習っていた関係で中学の部活も話し合って吹奏楽部に入りました。高校や大学を決めるときもそうでした。

**カ** ご主人は、どう言っていましたか？

**A** 私と娘が話し合って決めたのならそれでいいです。

**カ** そうですか。A 子さんは大切なことを決めるときは、いつも話し合ってきたのですね。

**A** そうです。B 子は勤め先の診療室でうつ病と診断され、入眠剤をもらって来ました。

でも、うつ病には見えないので医者を変えた方がいいでしょうか。変えた方がいいならB子と話し合いますが。

**カ** B子さんと直接話してみないと分かりません。

**A** そうですよ。どうも私はせっかちで、つい早く決めたいと思ってしまつて。

**カ** セッカちな性格なのですか？

**A** ええ、私のせっかちは、どうも私の母譲りみたいです。

**カ** では、A子さんのお母さんもせっかちだったのですか。

**A** そうです。嫌なところが似ますね。

**カ** いや、先を急いで決めようとしてしまっただけで、時間を大切にして行動力があるということでもありますよ。

**A** でも、私はいつも自分の母親に先を決められているような気がして嫌でした。

**カ** そうですか。転ばぬ先の杖ですよ。

**A** まあ、そうですね。でも、今は私のことではなくてB子のご心配なんです。

**カ** そうでしたか。でも、ひょっとしたら、B子さんもA子さんと同じように思っていたかもしれません。

**A** だから、私は母とは違ふようにと思つて、いつも話し合いをしてきたのです。

**カ** お母様とは違ふようにと思つてきたのですか。でも、A子さんが、もしB子さんの立場だったら自分の意見を聞いてくれたと思うでしょうか。

**A** 私は話し合っていたつもりですが、A子さんがそのつもりでも、親は

そもそも立場が上です。

**A** まあ、そうですね。そうすると私は話し合ったつもりでしたが、B子にしてみると押しつけられていたということでしょうか。

**カ** それはB子さんに聞いてみないと分かりません。

**A** B子はどう思っていたかですね。

**カ** そうですね。

**A** 私は、自分の母親と同じ事をやっていたのでしょか。

**カ** 私にはよく分かりません。

**A** そうですよ。自分がB子の立場に立つたらつて言われたら、私自身の親の顔が浮かんできて、ああ、同じだっと思いました。

**カ** そうしたら急に怖くなつて。

**A** そうするとB子さんは、A子さんが敷いたレールではなく、自分で自分のレールを敷こうとしているのかもしれないですね。

**カ** レールですか。そうかもしれません。

**A** そういえばB子は私とは違ふレールに乗つてしまつて離れていくようできびしくてたまりませんでした。

**カ** それは、みな同じですよ。子どもが離れていったら誰でもきびしいです。

**A** 話し合っているつもりでも、私がB子のために、間違えないようにとレールを敷いていたのかもしれない。

**カ** A子さんは、自分で自分の人生を決めようとして決断できなかったのでは

はないですか。

今まで自分で決めたことが無かつたから。

**A** ああ、そうかも。B子は、自分で決められないつて言つてました。そう、自分で自分のこと、生き方を何とかしようとしているつて思えてきました。私と同じかもしれません。

**カ** 私も、自分の生き方を何とかしたいと思いつつにもなりませんでした。

**カ** そういう思いをB子さんと話してみたらいかがですか。

**A** B子さんは、A子さんのことを分かってくれると思います。そして、B子さんがA子さんと同じように、自分のことを振り返るようになったら素敵ですね。

**A** そうですね。今日は本当にありがとうございました。

**カ** ええ、話してみてください。

.....

A子さんは、ニコニコしながら帰つて行きました。

二人でいろいろな生き方について話ができれば、B子さんも自分に対して少し距離がとれて自分で決められるようになると思います。

